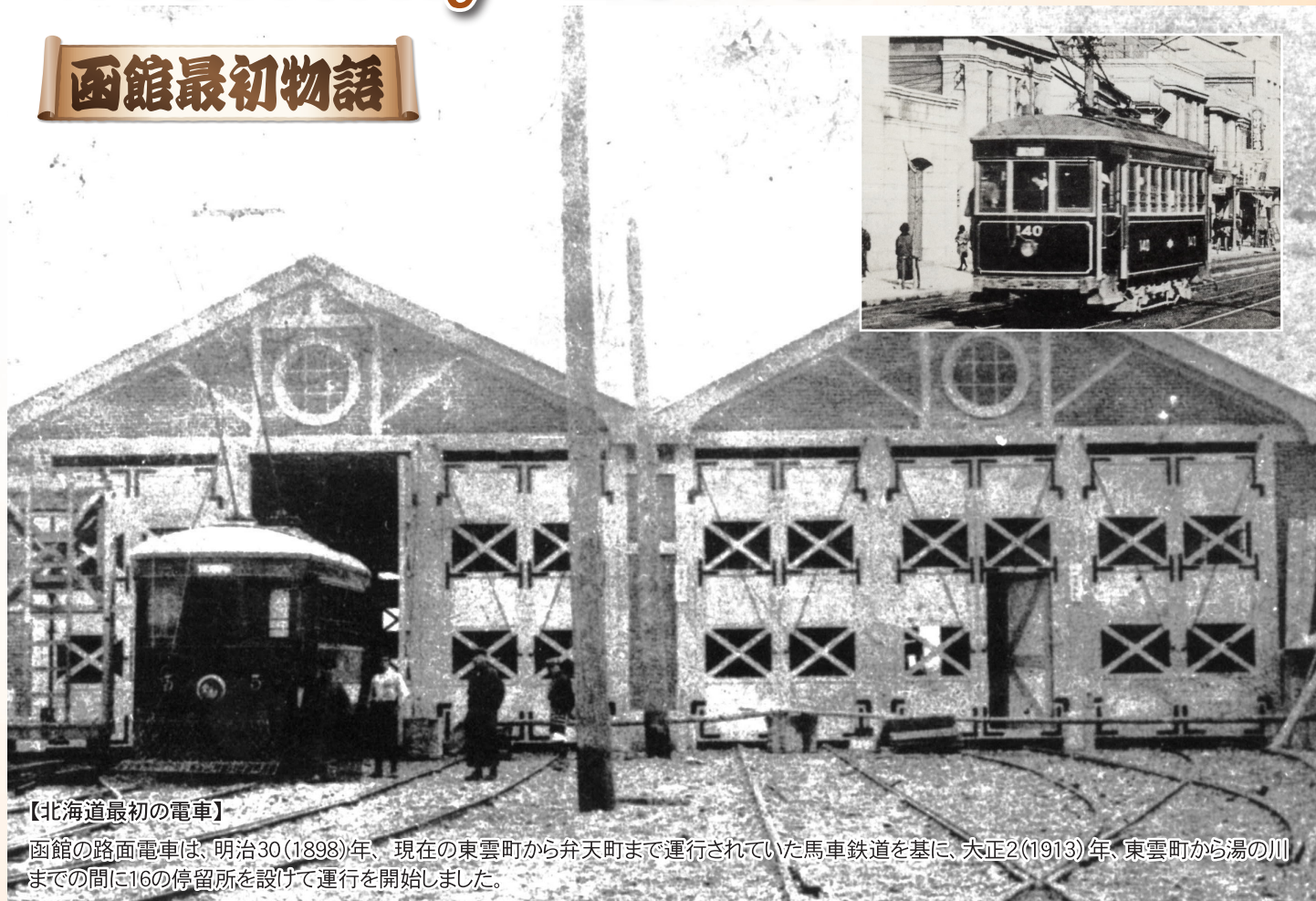


2017-2018 ガバナー月信

GOVERNOR'S Monthly Letter 3

函館最初物語



【北海道最初の電車】

函館の路面電車は、明治30(1898)年、現在の東雲町から弁天町まで運行されていた馬車鉄道を基に、大正2(1913)年、東雲町から湯の川までの間に16の停留所を設けて運行を開始しました。



ROTARY:
MAKING A
DIFFERENCE

ロータリー：変化をもたらす

国際ロータリー第2510地区 2017-2018年度ガバナー 国立金助

〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西11丁目4 大通藤井ビル7F TEL(011) 207-2510 FAX(011) 207-2512

E-mail: rid2510@nifty.com <http://rid2510.org>

2017-2018年度国際ロータリーのテーマ 「ロータリー：変化をもたらす」



国際ロータリー第2510地区 2017-2018年度地区目標

1. 世界ポリオデーの支援

あと少しで我々ロータリアンは「ポリオ撲滅達成」という歴史的瞬間に立ち会おうと
しています。

2. 地区委員会と各クラブの連携強化

地区委員会には、クラブ支援をする大切な役割があります。
地区への相談窓口「クラブ管理運営委員会」を設置。

3. 取り戻そう「ロータリーの心」

そして伝えよう「次世代を担う青少年へ」。

ロータリーの「人の役に立とう」と言うサービス精神は、112年経った今も健在です

CONTENTS

●ガバナーメッセージ..... 1	●第9グループIM報告..... 15
●国際ロータリー次期テーマ発表..... 3	●2017-2018年度新会員合宿セミナー報告..... 16
●国際協議会報告..... 4	●最後の海外研修を終えて..... 18
●ガバナー補佐研修セミナー並びに地区チーム研修セミナー報告..... 5	●新会員のご紹介..... 19
●千古不易の理念「奉仕の理想」..... 6	●米山記念奨学会寄付・ロータリー財団寄付..... 19
●地区クラブ支援委員会..... 7	●米山奨学生のご紹介..... 20
●2017-2018年度「タイ検証ツアー」の報告..... 8	●ハイライトよねやま..... 20
●2017年冬 地区青少年交換事業報告..... 10	●ロータリーコーディネーターNEWS..... 21
●「第2回学友体験・帰国報告会」を終えて..... 11	●地区カレンダー 3月・4月..... 22
●千歳セントラルRC 故齊藤会員からの贈り物..... 12	●出席率・会員数..... 23
●長万部RC / 創立50周年記念祝賀会..... 12	●日本人親善朝食会のご案内..... 24
●様似RC / 地域と共に歩んで50周年..... 13	●トロント国際大会案内..... 24
●第8グループIM報告..... 14	●文庫通信..... 25



すばらしい事業に出会って ロータリーのすばらしさ実感

国際ロータリー第2510地区

2017-2018年度ガバナー **國 立 金 助**

(函館RC)

ロータリーでもっとも大切なことは、他人に対する思いやり・いたわりの心を学びそれを実践することです。それは、心や体の健康があってはじめて出来ることです。此の度、小林博PG様に相談したところ「普段の日常生活の中で心身の健康に必要な最小限の知識をまとめた小冊子」を作成して戴きました。健康の大切さを我が身をもって一番知る私としては、第2510地区のロータリアンにもぜひ知って戴きたいと願い各クラブへ会員数分を送付させて戴きます。各クラブ会長様には、お手伝い戴き小冊子を各会員へ配布お願いいたします。

本年度の国際奉仕・VTT委員会のタイ検証ツアーを1月21日～25日で実施致しました。今回は谷口正樹委員長を初め27名のメンバーでタイへ行って来ました。私も夫婦で初めて参加させて戴き今までにないすばらしい感動をいただきました。(タイ支援は20数年前より実施している事を知り先人達の行動力に心より感謝申し上げます)

本年度は、26クラブの協力のもと、タイ、ノンカイ県、カラシン県の16の学校で実施した職業訓練事業(工業用マシン・理容美容訓練)、水事業(新規)、水事業(メンテナンス)、図書館事業、奨学金事業の検証と共にRI会長イアンH. S. ライズリー会長が提唱した植樹も小学校25校(650本)で実施させて戴きました。また、職業訓練の理容訓練の一環として私共夫婦・森川地区代表幹事の3人が訓練中の生徒・先生の手で散髪と理容をして戴き一生わすれる事のできない体験もさせて戴きました。

また、どの学校を訪問しても大歓迎、心から感謝されました。そしてそこにいる子供達の目の輝きを見た時、奉仕のすばらしさを実感致しました。また今回は、諒に残念ですが長年にわたってタイ支援に協力してこられた今は亡き齊藤博司元財団地区支援奨学会委員長(千歳セントラルRC)の奥様よりタイの子供達の為にと心のこもった大金をお預かりしました。さっそくタイと打合せをさ

せていただき小学校の建設資金の一部として使わせて戴く事になりました。タイの皆様よりご家族に対して心からの感謝と共に小学生が書いた絵を戴き、さっそく奥様へお届けしました。

前回約束した「世界平和を希求する重要なプログラムロータリー平和センター」の現況報告を申し上げます。[ロータリー平和フェローシップニュースレター第2号より抜粋]

Q. ポール・ハリスと、プログラムの関係は

A. ポールが亡くなったのは1947年のことです。そのポールの没後50周年を記念する平和プログラムをつくろうと、1996年にラジェンドラ・サブ管理委員長の下、すすめられました。当初、平和学を中心としたロータリー大学創設が検討されましたが、困難と判断し、むしろ、平和学に優れた大学の中にセンターを設け、世界で平和に貢献したいと願い活動する方々を迎え入れ、スキルを高め再び世に出していくプランが決定しました。

Q. では、センターが設置される大学はどのように決められましたか

A. 専門の委員会が世界中から100もの大学を調査し、地域性も考慮しながら実地訪問した上で、大学側の意欲、教授陣と平和カリキュラム等、総合的に判断し、スタート時は7センター(8大学)をつくることに決定し、2002年度よりのスタートとなりました。

Q. このプログラムの平和への貢献をお話してください

A. 世界各地で紛争の絶えない今日、訓練を受けた平和構築のエキスペートが求められています。ロータリー平和センターでは、その平和構築に必要とされる専門知識とスキルを養う機会を与え、平和の担い手となる人材を育てることを目指しております。

但し、平和活動といっても多種多様です。センターでの学科も大学によって異なり、平和研究、紛争解決、国際関係、国際開発政策、環境問題、

公共保健、ジャーナリズム、教育、行政学、その他と多岐にわたっています。

このように、多様な平和の分野でスキルを高めた平和フェローが卒業後、国際機関、政府機関、そして世界中のNGOなど、様々な場所でリーダーシップを発揮し、また、平和の担い手として、国内や国家間の協力構築、平和の推進、争いの調停に貢献するようにロータリーはプログラムをたちあげました。

当初のプログラムの名称は、「平和および紛争解決の分野における国際問題研究のためのロータリー平和センター」でしたが、現在は「ロータリー平和センター」と統一されております。

Q. ロータリー平和センターの現況はどのようになっていますか

A. 当初7センター(8大学)でスタートしましたが、パリ政治学院、カリフォルニア大学バークレー校、サルバドル大学の三校は廃止され、スウェーデンのウプサラ大学が新設されました。2年間学ぶ修士号コースは今は5センター(6大学)です。

また、2005年度より新たに3カ月修了の短期の平和センターを、タイのチュラロンコン大学に開設し、平和活動中でもスキルをより強化できるシステムをつくったのです。

Q. ロータリー平和フェローの応募と選考について教えてください

A. 職業と学業を通じて平和構築に強い専心を持ち、平和への熱意と献身をお持ちの方で、学士号またはそれに相当する学位があり、関連分野において3年以上の職歴(短期は5年以上、学士号は不要)があれば有資格者です。年齢は問いません。ただし優れた英語力が必要です。

ロータリークラブで対応が難しい場合は、各地区にご相談ください。日本で生活する外国人でも応募出来ますし、海外からの応募も受けられます。

オンラインで5月31日までに申請を受けた地区は選考を行い、ガバナーと、もう一人の責任者が承認した上で、7月1日の締切日までに、ロータリー財団に地区として申請します。

[クラブの申請を省略してもよろしいですし、地区は何名でも申請できます]

ロータリー財団は世界中から届いた申請書を基に書類選考し、10月、ロータリー平和センター委員会と各センター長がエバンストンに集まって厳しい最終選考を行い、センター毎の合格者(候補)を決定します。

内示を受けた者は大学の正式合格をもってフェロー合格者となります。(短期の場合、大学の正式許可は不要)

[応募・申請についての詳しい情報と関連資料はマイ・ロータリーから得られます]

Q. 日本からの応募状況は如何でしょう

A. 日本が平和国家ということもあるでしょうが、大変に少ないのが現状で、合格者は平均して毎年2名程度にとどまっています。

しかし、NGOやNPOを通して海外で平和活動に従事する若者も増えてますので、是非このプログラムを有効に生かしてほしいものです。その為にも全国のロータリアンの方々が自分たちのこの平和プログラムをよく知って頂き、地区やクラブ等にて広報をしていけば、応募者も増えられるのではないのでしょうか。

Q. フェローに支給される奨学金はどれくらいで、その資金源はどこから出ているのでしょうか

A. 修士号コースでは約2年間の学費、居住費、生活費、そして研究の為の海外等の実地研修を含めると、一人当たり8万ドル程度かかるということです。

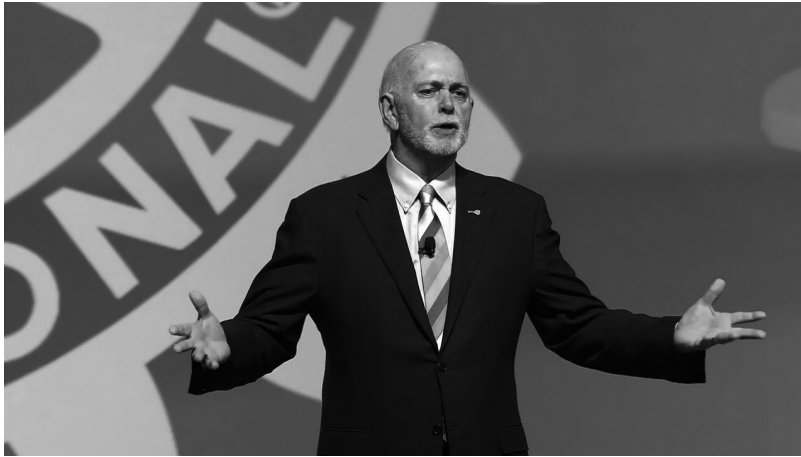
資金源ですが、世界各地のロータリアン、地区、その他の支援者からの寄付によって支えられています。

地区のDDF(地区財団活動資金)からの寄贈と個人の基金の運用益、その他の寄付と合せてプログラムを支えます。

DDFは皆様のご寄付ですから、皆様もすでにこのプログラムの支援者と言えます。

恒久基金で、累計25,000ドル以上から冠名基金を設立できます。日本では100万ドル以上寄贈した方を筆頭に多くのロータリアンが支援を続けて、1,000万ドルに達するのにも間近だと思います。

また、このプログラムを円滑に運営出来るようにロータリー財団は目標額を設け、地区や個人の支援を求めています。



インスピレーションになろう

国際ロータリー バリー・ラシン次期会長の願いは ロータリアンが「インスピレーション」になること

去る日曜日、国際ロータリーの次年度会長バリー・ラシン氏（バハマ、イーストナッソー・ロータリークラブ所属）がロータリーの未来のビジョンについて語り、会員や地域の人びとへのインスピレーションとなって、次世代のために持続可能な活動を行うよう次期リーダーに呼びかけました。ラシン会長エレクトは、米国サンディエゴで開催中のロータリー国際協議会で、次期地区ガバナーに向けて2018-19年度テーマ「インスピレーションになろう」を発表、「何か大きなことに挑戦しようというインスピレーションを、クラブやほかのロータリアンに与えてください。自分よりも長く、後世にも生き続けるものを生み出すために、行動を起こす意欲を引き出したいです」と語りました。ロータリーの新しいビジョン声明は、次のように謳っています。「私たちロータリアンは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びと

が手を取り合って行動する世界を目指しています」。

ラシン氏は、このビジョン声明の意義を強調し、声明がめざすロータリーを実現するためにリーダーシップを発揮するよう求めました。

ビジョンの実現にはまず組織づくりが必要だと、ラシン氏は強調します。「ロータリーは第一に会員制組織です。ですから、奉仕活動を通じてより良い世界を築きたいと願うなら、まずは会員を大切にしなければなりません」「変化を生み出そうという意欲を、クラブ会長と地区内ロータリアンの心に芽生えさせていきたいのです。もっと何かをしよう、可能性を最大限に発揮しようというやる気を引き出し、それぞれのやり方で前進できるよう手助けすることが皆さんの仕事です」

ポリオ撲滅の進展

ロータリアンにとってインスピレーションの源の一つはポリオ撲滅活動である、とラシン氏は述べ、過去30年間に成し遂げた顕著な進展に触れました。1988年には野生型ポリオウイルスによって推定35

万人が身体まひを患っていましたが、2017年に報告されたポリオ症例数はわずか21件。「今がポリオ撲滅活動の正念場」と語り、「新規症例があるたびに、それが史上最後の症例となる可能性がある」と述べました。ただし、最後の症例が報告されても仕事が済んだわけではないと、ラシン氏は強調します。「撲滅認定委員会がポリオ撲滅を正式に認定するまで、すなわち3年間、川や下水、または人の体内からポリオウイルスが一切発見されなくなるまで、ポリオ撲滅活動は終わらないのです。それまでは、今、行っているすべてのことを続けていかななくてはなりません」。こう述べたラシン氏は、予防接種活動やサーベイランス（監視）に引き続き力を入れていくことの重要性を訴えました。

環境の持続可能性を守る

さらにラシン氏は、近年、ロータリーが人道的活動における「持続可能性」を重視していることに触れ、環境汚染や気候変動という厳しい現実をロータリアンが認識すべきであると述べました。祖国バハマの土地の80パーセントが海拔1メートル以下であることも指摘。2100年までに海面が2メートル上昇すると推定されており、「私の祖国は、ほかの多くのカリブ海諸島や、世界中の沿岸都市や海拔の低い地域と同様、50年後にはなくなってしまう」と懸念します。

ロータリーのすべての奉仕活動を、より大きなグローバルなシステムの一部としてとらえるよう、ラシン氏は呼びかけました。これは、次期地区ガバナーが、クラブだけでなく、地域全体にとってのインスピレーションとなる必要性を意味する、と述べます。「持続可能な活動成果をもたらし、世界をより良くしたいと私たちは願っています。ロータリー内部やロータリアンのためだけでなく、世界全体のあらゆる人たち、あらゆる世代のために、私たちにできることがあるのです」

【国際ロータリーホームページより】



国際協議会報告

国際ロータリー第2510地区

ガバナーエレクト 小 山 司

(札幌RC)

平成30年1月14日から21日まで米国サンディエゴで開催された国際協議会に参加して無事帰ってきました。全世界539地区からガバナーエレクトとその夫人約1000名が一堂に会し、ロータリーの国際性を肌で感じながら、楽しく充実した一時を過ごすことができました。

国際協議会は、ロータリーの知識と最新情報を学び、意欲を高めて、ガバナー就任に向けた準備をするための研修会です。ロータリーが直面する課題や機会について理解を深め、リーダーとしてロータリーの理念を実践する心構えを整えることが目的とされています。プログラムの構成はクラブの強化、人道的奉仕の増加、公共イメージの向上を柱とするロータリーの戦略計画を基本に組み立てられており、実効性のある優れた内容であったと思います。

開会本会議(テーマ: This Is Our Time)では、バリー・ラシン次期会長による2018-2019年度テーマ講演があり、テーマ:「BE THE INSPIRATION(インスピレーションになろう)」が発表されました。テーマの真意について理解を深めていただくため、講演の一部を引用します。

- ★「何か大きなことに挑戦しようというインスピレーションを、クラブやほかのロータリアンに与えてください。自分よりも長く、後世にも生き続けるものを生み出すために、行動を起こす意欲を引き出していただきたいのです」
- ★「ロータリアンの魂、すなわち、より良い世界への切望、そして、より良い世界をつくることは可能だという、心の奥深くにある真の自覚を呼び起こすことから始めて下さい」

ロータリーの新しいビジョン声明は、次のように謳っています。「私たちロータリアンは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取り合って行動する世界を目指します」。ラシン次期会長は、このビジョン声明の意義を強調し、声明が目指すロータリーを実現するためにリーダーシップを発揮するように求めました。

プログラムの全体像を理解していただくため、本会議の講演タイトルを列挙します。第2回本会

議(ビジョンを掲げて導く)；「リーダーシップ」、「中核的価値観」、「リーダーはあなた」。第3回本会議(クラブの意欲を引き出す)；「会員増強の未来」、「参加と関与の促進」、「クラブを活気づける」。第4回本会議(未来がやってきた)；「ローターアクターと学友をロータリーへ」、「異なる世代を理解する」、「私たちの未来である青少年」。第5回本会議(私たちの財団の不思議な力)；「ポリオ：歴史をつくるカウントダウン」、「グローバル補助金」、「平和に向けた活動」、「財団の目標」。第6回本会議(世界を変える)；「変化をもたらすプロジェクト」、「奉仕プロジェクトの力」、「世界でよいことをしよう」。第7回本会議(世界にロータリーを伝えよう)；「2018年トロント大会」、「ロータリーのブランド：エッセンス、価値、ボイス」、「素晴らしいイベントの力」、「世界を変える行動人」。第8回本会議(変化を描く)；「地区リーダーシップ・プランとチームを成功に導く方法」、「今後の戦略計画」、「変化に対応する方法」。第9回本会議(行動する時)；「課題を乗り越える」、「協議会で学んだことを実践する」

分科会では、以下のテーマでグループ討議(アイデア交換)が行われました。「ビジョンを掲げて導く」、「会員基盤のサポートと強化」、「若いリーダーの参加促進」、「ロータリー財団の世界的なインパクト」、「世界でよいことをしよう」、「強いブランドを築く」、「ガバナー配分予算に関する責務を理解する」、「地区で変化を導く」、「協議会で学んだことを実践する」の9セッションです。

その他、「夕食会」、「国際晩餐舞踏会」、「カリブの夕べ」などの懇親イベントへの参加を通して同期のガバナー及びその配偶者(パートナー)と知り合い、RI、財団役員の方々にもお会いでき、世界中の仲間との交流を深めることができました。思い出に残る素晴らしい体験をさせていただきました。次年度に向けてやっとなのスイッチが入ったというのが実感です。今後とも、ガバナーとして地区のクラブをサポートし、皆様やロータリーの2018-2019年度目標を達成する準備を続けていきたいと思っています。皆様の益々のご活躍を期待し、また一層のご協力をお願い申し上げます。





ガバナー補佐研修セミナー報告並びに 地区チーム研修セミナー

次期地区代表幹事 **久保田 俊 昭**

(札幌RC)

ガバナー補佐研修セミナー

2018-2019年度ガバナー補佐研修セミナーが、去る2月10日(土)午前10時より札幌グランドホテルで開催されました。

開会にあたり、小山ガバナーエレクトよりご挨拶をいただき、その後、国際協議会出席報告ならびに次年度の地区目標について説明を受けました。

今回のセミナーでは、ガバナー補佐は、当日の午後開催の地区チーム研修セミナーにも出席されますので、地区からの説明事事項の重複を避けて、フリー・ディスカッションにウエイトをおいたプログラム構成としました。

ガバナー補佐の主な役割は、ガバナーを支援援助し、担当するクラブの効果的な運営に向けてサポートを行うことでもあります。

また、クラブの強みや弱み、悩みなどの情報をガバナーや地区委員会に伝える大切な役割を担っております。

かかる点においても、熊澤研修リーダー座長による忌憚のないフリー・ディスカッションによって、日頃、疑義に感じておられた疑問解消に大いに役立ったものと確信しております。

また、ガバナー補佐が、午後の部での地区チーム研修セミナーの場において、クラブを支援するために地区委員長とコミュニケーションを交わす重要性を汲み取っていただけたものと思っております。

最後になりましたが、開催準備を含めてご協力をいただいた次期地区幹事等、関係者の労に厚く感謝申し上げます。

セミナー プログラム

- | | |
|-------|------------------|
| 10:30 | 開会 |
| 10:30 | 小山ガバナーエレクト挨拶 |
| 10:40 | 国際協議会出席報告並びに地区目標 |
| 11:00 | 質疑応答、意見交換 |
| 12:00 | 閉会 |



地区チーム研修セミナー

2月10日(土)、2018-2019年度地区チーム研修セミナーが午前の部のガバナー補佐研修セミナーに引き続いて、午後1時から札幌グランドホテルで開催されました。

開会に際して、小山ガバナーエレクトより出席者の紹介とご挨拶をいただきました。

次いで、小山ガバナーエレクトより次年度R I テーマの紹介および地区目標について基調講演がおこなわれ、次年度における地区運営の基本的スタンスについて言及されました。

また、次期地区研修リーダーの熊澤隆樹PGよりご挨拶をいただき、次いで嵯峨義輝PGより「地区委員会委員長の役割と責務」についてご講演をいただき、リーダーとしての心構えと実行すべき事柄についてロータリーの精神に基づいて分かり易く提示をしていただきました。この結果、各委員会にはそれぞれ独自の役割がありますが、委員長としては、地区目標の達成に向けてガバナー補佐等の地区役員と協力をして活動を行うことの重要性や、クラブの強化を支援する一環として、クラブリーダーとも交流を深めることの意義を再認識されたものと思います。かかる意味においても、ガバナー補佐と地区委員会委員長が一堂に介して、次期に向けて意識合わせを行い、R I テーマや次期地区目標について研鑽するメリットは計り知れないものがあります。

なお、地区からの説明事項としては、柿本純次期財務委員長より地区予算案について説明があり、私からは地区組織案、年間スケジュールおよびクラブ公式訪問スケジュールについて説明を行いました。

また、次期ガバナー補佐からは自己紹介および担当グループの状況報告がなされ、次期地区委員長からも自己紹介および意欲溢れる活動計画について発表がなされました。

セミナーを終えるにあたり、これまでの説明や意見交換をふまえて、福田武男ガバナーノミニーから閉会の挨拶をいただいて、セミナーは午後5時に終了しました。





千古不易の理念「奉仕の理想」

地区職業奉仕・基本理念委員会

委員長 玉井 清 治

(函館亀田RC)

どこのクラブでも例会で歌う「奉仕の理想」ですが、これは日本にロータリーが上陸した際、米山梅吉翁がポール・ハリスのThe first RotarianおよびThis Rotarian ageの翻訳にあたって、英文の「The ideal of service」を「奉仕の理想」と訳しました。奉仕理念のことには間違いありませんが、なかなか解りづらいものです。

「serviceという言葉の日本語訳として、奉仕という言葉がその意味に近く、他に適切な言葉がなかったので、訳語として当てられた」、また、「むしろ、そのままサービスとして用いるべきだ」という言葉が古い文献には残っております。

ロータリアンである私たちは、「service」の概念をしっかりと理解する必要があります。serviceの動詞形はserveで、どういう動作を称してserveというかといいますが、「人とか地域にニーズ(needs)があり、そのニーズを満たして行こうとする行為」をserveといいます。従って、serveという動作を行うためには、先ずニーズを知ることが必要です。ニーズが満たされなければ、serveしたことになるのです。バレーやテニスで最初に打つボールをどうしてserveというかといいますが、ボール遊びをしたいというニーズがある。そして、かまえて、ボールがくるのを待っている。そのニーズを満たす行為とは、そこへボールを提供する事だから、最初にボールを提供する行為をserveというわけです。

さて、ロータリーの奉仕理念とは何でしょうか？ 100年以上続くロータリー史のなかで、奉仕理念を説いているのは決議23-34だけです。そこには「ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は、奉仕—Service above self—の哲学であり、He profits most who service bestという実践理論の原理に基づくものである」と定義されています。すなわち、ロータリーにはService above selfとHe profits most who service bestという二つの奉仕理念があることとなります。後者はアーサー・フレデリック・シェルドンが経営学の基本理念として自らのビジネススクールで教えていたものをロータリーが受け入れ、奉仕理念として採択したものです。もう一つの言葉の原型は、フランク・コリンズが1911年のポートランド大会で語ったService not selfで、この言葉は、その後、Service above selfに変化し、これらの二つの言葉は1950年にロータリー・モットーとして正式に採択されました。残念なことには、このService above selfは誰がいつどのような意図で提唱した言葉なのかが、いまだにわかっていないことです。

調べを進めると、The ideal of serviceという言葉が最初に使ったのは2代目R I会長のグレン

C. ミードだと思われ、1915年に開催されたサンフランシスコ大会のスピーチの中で、「私たちは事業や経済活動の中で、同僚に対して高いideal of serviceを与えることができないだろうか」と述べています。事業や経済活動の中という文言が入っていますので、奉仕理念の最初の発想は職業奉仕理念であったことが推察できます。

1918年のカンザスシティ大会で、「すべての尊敬すべき事業の基礎としてのideal of service」という文章が連合会の綱領として採択されましたが、これも尊敬すべき事業の基礎という文章から、職業奉仕理念のことを表しているものと思われる。

さらに、ポール・ハリスは1921年のエジンバラ大会で「ideal of serviceの表明を通じて、文明水準を高揚し商工業を成功に導く原動力にしよう」というスピーチを行っています。これも対象を商工業にしていることから、職業奉仕理念のことだと考えられます。

このように、当時は、ロータリーの奉仕理念とは職業奉仕の理念、すなわちHe profits most who serves bestを指していたものと思われるのですが、その後、奉仕の対象が人道的奉仕活動にシフトされるに従って、奉仕理念の意味も変化してきます。1937年ニース国際大会においてR I会長ウイル・メーニア Jrは、「誰かが奉仕理念とは、他人のことを思い遣り、他人のために尽くすことだと定義しました。これを通じて、ロータリアンは自らの職業の規範を高めながら、国際理解と親善と平和を推進するために自らの地域社会に役立つように努力しています」と述べています。誰が、最初に「他人のことを思い遣り他人のために尽くす」という表現をしたのかは不明ですが、この説明は明らかに人道的奉仕活動を指すものと考えられます。1955年11月にコネチカットで行われたIMで、チェスレー・ベリーは、「ロータリアンは人類すべてが他人のことを思い遣り他人のために尽くすようになるまで、超我の奉仕の活動に参加するように説得すべきです。」と述べています。これらのスピーチから、ロータリーのideal of serviceはService above selfを強く指していることがうかがえます。

ロータリー運動から職業奉仕の理念が徐々に希薄になり、人道的奉仕活動の比率が高くなるに従って、ロータリーの奉仕理念の意味するところも変化するようです。変えなければならないもの、変えてはいけないものを、私たちはクラブ例会で話し合い、前に進んでいかなければならないのではないのでしょうか。

Der bestirnte Himmel uber mir,
und das moralische Gesetz in mir
「わが上なる輝ける星空とわが内なる道徳律」
イマヌエル・カント

地区大会時におけるアンケート結果について

地区クラブ支援委員会

副委員長 山根良隆
(岩見沢RC)

2017-2018年度国際ロータリー第2510地区地区大会が函館で開催されました。大会時に地区クラブ支援委員会は、地区内クラブが直面すると思われる種々の問題を把握し、解決のサポートが出来たらと願い、クラブに共通する可能性のある問題として

1. 新会員・ロータリー歴の短い会員の研修について
 - 問・クラブとして定型的なプログラムを用意していますか（はい・いいえ）
 - 問・地区で行っている新入会員研修に参加していますか（はい・いいえ）
2. クラブ長期計画について
 - 問・クラブで長期計画を策定していますか（はい・いいえ）
3. その他、地区への要望・ご質問等ございましたら

という三点について後日でもよいのでアンケートにご協力下さいと、会長・幹事さんにお願ひしました。その結果についてご報告致します。紙面の都合ですべては掲載できませんがまとめてみました。

アンケート回答は69クラブ中43クラブより頂きました。ご協力に心より感謝申し上げます。

1. ①クラブとして定期的なプログラムを用意していますか
 - はい 26
 - ・クラブが情報委員会・職業奉仕委員会などで、新会員のオリエンテーションを開いている
 - ・入会の浅い会員は親睦委員会に所属し、親睦事業に携わることで会員との相互理解増進を図る。
 - ・新会員歓迎交流会を通じ理解をしてもらう
 - ・会長経験者・長老会員・中堅会員が心構え・ロータリーの意義・ロータリアンとしてのありかた等について卓話をしている
 - いいえ 16
 - ・会員がすくないので会員でサポートしている
 - ・地区での研修会に参加している
 - ・クラブの活動を通じてクラブの方針・理念を理解してもらう
 - ・今後取り組んでいきたい
1. ②地区で行っている新入会員研修に参加していますか
 - はい 22
 - ・他クラブとの交流があり人脈が出来る
 - ・ロータリーの幅広さと多様性に触れ充実した研修でした
 - ・講演・グループ討論・ワークショップ等、

ロータリーを学ぶ場で有意義な研修でした
・今後も期待しています

- いいえ 20
 - ・新会員には案内しています。宿泊が伴うものは参加しにくい
 - ・他クラブのロータリアンを知ることは有益な機会であると思うので、グループ内での開催を希望。研修という意より親睦的な内容のほうが参加しやすい
 - ・新入会員は親睦委員会に配属になりファイアーサイドミーティングを開催し、親睦交流とロータリーの研修を兼ねた内容で行っています

2. クラブ長期計画を策定していますか

- はい 15
 - ・会長・幹事・会長エレクト・次々年度会長・幹事予定者など役員で新規事業計画、継続事業の検証、クラブ運営などについての会議
 - ・介護用電動ベットの寄贈を続ける。あと2年で38名を50名にする
 - ・野球・バドミントン・相撲・アイスホッケー・合唱団などの支援
 - ・交換留学生・米山奨学生などの受け入れ
- いいえ 27
 - ・各年度会長方針単年度主義で進めている
 - ・定期的にクラブ戦略委員会を開き今後の方向性を議論している
 - ・クラブのモットーにしたがい進めている
 - ・人数が少なく高齢化しているので必要性がない

3. その他地区へのご要望・ご質問

- ・地区財団補助事業の申請スケジュールを見直してほしい。新年度の事業計画前の申請には正直無理があります。
- ・地区としての奉仕参加について、年度初めに案内してほしい。期日がせまってからは参加しづらい
- ・地区組織図とクラブ組織図において“齟齬（そご）”をきたしている。この点の解決策等良い考えがないか？

以上回答の内容が同じものについては集約して記載いたしました。

長期計画については、継続事業（奉仕活動）を行っている為“はい”と答えられているクラブが見受けられます。各クラブの取組み、地域での奉仕活動、会員の高齢化等問題を抱えるながらロータリー活動を推進されている様子が感じられました。ご協力有難うございました。



2017-2018 年度 「タイ検証ツアー」の報告

地区国際奉仕・V T T委員会

委員長 **谷口正樹**
(滝川RC)

日頃より地区国際奉仕活動にご理解とご協力いただき誠にありがとうございます。

今年度の国際奉仕・V T T委員会としての事業検証ため1月21日より1月25日までに、国立ガバナーを団長にメンバー24名・通訳スタッフ2名の総勢26名にて今年度R I第2510地区内事業実施地域を訪問してきました、その報告をいたします。



1月21日、千歳空港からバンコク、国内線に乗継コンケーンまで一気に現地へ移動、翌22日、9カ所の事業を訪問するため22日は3グループに分けて行動しました。

Aグループ

1. 新規水事業 実施校「BanNongChangSchool」
事業主催クラブ
滝川RC・砂川RC・小樽銭函RC・千歳セントラルRC・三石RC 5クラブ共催

Bグループ

1. 新規水事業 実施校「BanNardSchool」
事業主催クラブ
札幌西RC・深川RC 2クラブ共催
2. 新規水事業 実施校「SiGaiSchool」
事業主催クラブ
新札幌RC・札幌北RC 2クラブ共催
3. 改修水事業 実施校「BanDuaSchool」
事業主催クラブ
余市RC・倶知安RC・羽幌RC 3クラブ

- 共催
4. 改修水事業 実施校「HuaHadSchool」
事業主催クラブ
留萌RC・伊達RC 2クラブ共催
 5. 改修水事業 実施校「HinNgomSchool」
事業主催クラブ
室蘭東RC・室蘭北RC 2クラブ共催
 6. 改修水事業 実施校「AksornAduiSchool」
事業主催クラブ
七飯RC・北斗RC・赤平RC 3クラブ共催

Cグループ

1. 奨学金事業 実施校「RoyalKingScool」
事業主催クラブ
札幌手稲RC・札幌清田RC 2クラブ共催
2. 改修水事業 実施校「KuiNangKaoSchool」
事業主催クラブ
静内RC・札幌手稲RC 2クラブ共催



検証をすべて終え、全員がウドンターニに集合し、そのR I第3340地区のガバナー主催の夕食会に出席し、第3340地区メンバーと懇親を深めました。

翌23日

1. 職業訓練事業 実施校
「NongkhaiVocationalCollege」ほか2校

- 事業主催 RI第2510地区
 2. 斎藤メモリアル事業
 実施校「BanWiangScool」
 事業主催クラブ 千歳セントラルRC

職業訓練事業については、県知事に招かれ大きなセレモニーが開催され、その模様を含めた23日の我々の行動に現地テレビ局が同行し、その内容がテレビに放送されました。職業訓練校においては、今年度より実施しております理美容事業の検証として、国立ガバナー・奥様・森川代表幹事3名が理美容訓練を受けて子供たちから、ヘアカット・シャンプー・セットとまさに体を張った検証をさせていただきました。23日の検証を終え、ノンカイRCクラブ主催の夕食会に招かれ懇親を深め、最後に「手に手つないで」を現地メンバーとともに合唱して終わりました。



最終日24日

1. 図書館事業 実施校「MakKongFaiTakScool」
 事業主催クラブ
 札幌南RC・函館RC・小樽RC・札幌東RC・
 札幌はなますRC 5クラブ共催

この学校においては、参加メンバー全員で子供たちと一緒に地区の事業でもある「植樹事業」を行ってきました、時間の関係で、私たちが樹木を植えたのはこの学校だけでしたが、他の学校においてノンカイRCの協力により合計600本の「植樹事業」を終了することができています。

この学校の検証で全てのスケジュールを終わらせ、ウドンターニ空港からバンコクで乗継、翌25日千歳空港に到着しました。ツアー中、大きな事故もなく移動距離が長いにもかかわらず、体調不良を訴える人もなく、無事検証ツアーを終えましたことを、参加された皆様に大変感謝し、改めてお礼申し上げます。

2017-2018「タイ検証ツアー」参加者
 (敬称略)

国立金助ガバナー、奥様、森川順治代表幹事(函館RC)、福井敬悟、渡辺美代子、石川信行、奥様(札幌手稲RC)、上村百合子、濱田洋幸(小樽銭函RC)、光川眞量、青木貞康(札幌はなますRC)、山口史郎、岩崎修一(札幌東RC)、松原重俊(砂川RC)、出村知佳子、中村越子、斎藤昌一、大浦隆司(札幌北RC)、富岡豊(静内RC)、寺岡秀一(江別西RC)、江本勝典(岩見沢RC)、出口弘史(三石RC)、田口廣(千歳セントラルRC)、谷口正樹(滝川RC)

国際奉仕事業は相手側ロータリークラブの信頼の上に成り立っています。今年度もタイ第3340地区・第3350地区の協力があった事業でありました。彼らに深く感謝し、今後も、この絆を絶やすことはできないと思っております、なぜなら、この地域に暮らす子供たちが、私たちロータリアンの奉仕を待っているからです。「きれいな水・多くの本との出会い・整備された学校」から健康な社会人そして国際人に繋がるものと私は信じています。

最後に、今年度の国際奉仕事業プログラムに参加され、事業主催された地区内26クラブのメンバーに深く感謝いたします。なお、今年度事業の報告書ができましたら、皆様のクラブ事務所へお送りいたします。





2017年冬 地区青少年交換事業報告

「札幌雪まつりボランティア活動」

地区青少年交換委員会

委員長 西村 英 晃

(恵庭RC)

2月12日(月)、第68回札幌雪まつり大通会場にて外国人観光客への通訳、案内、会場内のゴミ拾いを受入学生、派遣候補生、ROTECX、関係ロータリアンが参加し行いました。

今回の事業は、12月2日に行われた研修会にて、学生達に出来る奉仕活動話し合ってもらい決定いたしました。

このことは、世界的な奉仕団体でありますロータリーを通して関わる一人ひとりの奉仕の心や仲間意識を養う機会になったと思います。

また、この活動は第2500地区と合同で行うことができ、学生同士の友情や人数があまり多くない交換学生同士の良い交流も図ることが出来ました。

当日は、観光で訪れていた関西方面のロータリアンの方にもお声掛けを頂き、雪まつり会場に訪れていた方々にも学生達の活発な姿も見いただけたのではないのでしょうか。

今後も引き続き、せっかくロータリーのプログラムに参加してくれた機会ですから、このような学生が主体の自ら考え実行する奉仕活動を企画していきたいと思っています。

「インターナショナルデー参加」

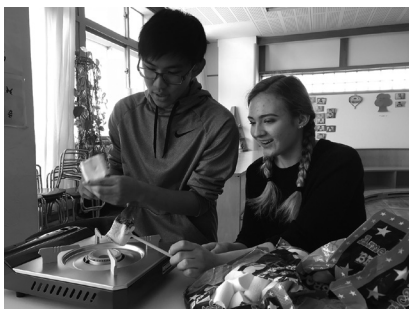
先の雪まつりボランティア活動の後の2月17日土曜日に、恵庭市の恵庭幼稚園で行われた「インターナショナルデー」に、受入学生、派遣候補生で参加してまいりました。

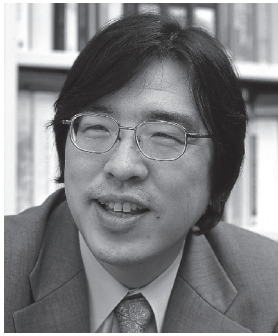
この事業は、昨年度に初めて当委員会企画した学生達が考える奉仕活動で慰問させて頂いた幼稚園よりお誘いがありました。

当日は、「世界の国の文化を体験しよう」というテーマで様々な国の方々が集まり、それぞれの国の踊りや遊び、食べ物を園児、保護者に紹介するというものでした。

青少年交換事業で今年度受入学生はアメリカとオーストラリア二つの国のブースを担当し自国ではアウトドアで子供たちのおやつとして親しまれているという、アメリカ「トースティッド マッシュマロ」とオーストラリア「フェイリーブレッド」を手作りし、参加者の皆さんに食して頂きました。

このように、地域の方や地域の団体にも理解して頂ける活動づくりにも努めて参りたいと思います。





「第2回学友体験・帰国報告会」を終えて

地区学友委員会

委員長 菅原 秀二

(札幌大通公園RC)

2018年1月20日の土曜日に、昨年に引き続きパークホテルを会場として「第2回学友体験・帰国報告会」が開催されました。この会は、昨年度のガバナーである武部パストガバナーの肝いりで、ロータリーの様々な青少年育成プログラムを体験した学友を集め、相互の親睦・交流を図るとともに、ロータリアンにこれらの青少年育成プログラムの実情を知っていただくことを目的に設立されました。

実際に、ロータリーは多彩な青少年育成プログラムを有しています。本地区では、財団奨学生と旧GSEのOBを母体とした財団学友会、米山記念奨学生のOBを母体とした米山学友会が組織され、独自の活動を展開しております。この二つの組織を支柱として、この度の学友会構想は、インターアクト、ロータアクト、青少年交換、RYLAのOBも含めて組織することを目指しているものです。もちろん、旧GSEから発展したVTTもこれに含まれています。この「学友体験・帰国報告会」は、こうした青少年プログラムを体験した方、あるいは海外で経験し帰国した方が一堂に集まる貴重な機会を提供するものです。

さて、当日は、昨年の78名に続き74名の出席者を数え盛会となりました。この誌面をお借りして、お忙しい中ご出席いただいた皆様に感謝申し上げます。

まず、第1部では、「ロータリー学友の可能性」と題したパネルディスカッションが地区青少年奉仕委員会委員長の西方洋昭氏(岩見沢RC)の軽妙な司会のもとに行われました。パネラーは、インターアクト学友として坂本彩華さん、ロータアクト学友として伊藤晴竹さん、RYLA学友としてタイ人のプーワナットさん(地区ではプー君として著名)、米山学友会会長の朴炫珍さんの4名でした。その内容は、近況報告に始まり、プログラムの活動をしているときに印象に残っていること、プログラムは自分にどのような影響を与えたのか、そしてプログラムが終わりOBすなわち学友となった今、どのような可能性を感じているのか、また、ロータリーに臨むことは何か、といった多彩な話題が展開されました。まさに、あっという間の1時間でした。

このパネルディスカッションに続いて、第2部では「帰国報告会」と題して、海外での

プログラムの体験を語っていただきました。最初の報告は、青少年交換の経験者である村重カナナさんで、「繋がり」と題して、2011年から11年にかけて青少年交換の高校生として体験したアメリカが大学生として、あるいは今でもずっと「繋がって」いることを話してくださいました。次は、財団奨学生として派遣された四宮皓子さんで、「ニューヨークでの留学を終えて」と題し、ニューヨークでの美術と英語の勉強について、いかに大変だったかについて報告してください、同じく財団奨学生として現在も留学生活を続けている永嶋知紘さんが現地からの映像を送ってください、ご活躍の様子やアメリカでの生活について紹介してくださいました。最後に、VTTとしてタイを継続的に訪問し、活動を続けている大浦隆司氏(札幌北RC)と第1部でも登場したプー君が「ロイヤルキングソフトスクール調理授業報告」と題して、職業訓練の実際について、話してくださいました。皆さん、それぞれに興味深い報告で、楽しみながらも知的好奇心を引き立ててくれるような刺激的なものだったと思います。

最後に、日本ロータリー学友会の代表幹事である高木直之氏(かながわ湘南RC)から講評をいただき、会は終了しました。その後、懇親会ではインドネシアから来た米山記念奨学生のダンスなどもあり、大いに盛り上がりました。

聞くところによると、ロータアクトやRYLAに学友会が発足するということですので、学友の輪はますます拡大していくと同時に、これらの学友会を結びつける学友委員会の役割も重要なものとなっていくと考えております。



千歳セントラルRC 故齊藤会員からの贈り物

千歳セントラルロータリークラブ 田 口 廣

2017年8月に、胃ガンで亡くなられた齊藤会員の奥様から「タイの子供たちに役立てて下さい」と寄付を頂きタイ・ノンカイの小学校に『シェルター・公園』が完成し、子供たちも大喜びしていました。

齊藤会員は タイ検証ツアーに3回も同行し、亡くなる直前まで今年度のツアーに参加する気でいたようでした。

子供たちの笑顔が心に残っていたのだと思います。



今回、タイへの検証ツアーで伺いました時、現地の子供たちから「子供たちが遊具で遊んでいる絵」をいただきました。

長万部ロータリークラブ

創立50周年記念祝賀会

去る2017年10月23日に、長万部RC創立50周年記念祝賀会が長万部温泉丸金旅館にて行われ、第2510地区国立ガバナー、第10グループガバナー補佐、地区役員の出席のもと全会員夫婦同席で盛大に行われました。

写真は国立ガバナーより、RI会長からのクラブ創立50周年表彰状が赤塚会長に授与された様子です。



様似ロータリークラブ

地域と共に歩んで50周年

国際ロータリー第2510地区第8グループ様似ロータリークラブは、遡ること昭和43年7月26日、同第8グループの浦河ロータリークラブをスポンサークラブとして21人の会員からスタートし、初代会長に武岡春雄氏が就任、9月10日に全国で882番目のクラブとして認証されました。

本年が50年目にあたり、去る2月4日、様似町交流宿泊施設アポイ山荘を会場として創立50周年記念式典を開催。第2510地区ガバナー国立金助氏は体調を崩され検査入院中であり、急遽、細川好弘パストガバナーにご臨席賜り、又、浦河、三石、静内、えりもの各ロータリークラブの会員大勢のご出席を頂き、友情を深め、和やかに楽しい祝賀の宴となったことは言うまでもありません。

現在、当クラブ会員は18名と減少傾向にありますが、50代の会長として、チャーターメンバーをはじめグループメンバー、地域に支えられて今日を迎えられた感謝を胸に、「障害者も高齢者も健常者も地域と共に暮らせる「ノーマライゼーション」の考え方をテーマとして取り組んでいます。重度の障害を持ち、地域の成人式にも参加出来ない一人の成人に、「ひとりだけの成人を祝う会」に「出でて奉仕」の精神から実行委員として奉仕活動させていただきましたし、今回の式典のプログラムでは、生まれた時から「ダウン症」の障害を持つアフリカン太鼓奏者「新倉壮朗氏」に來町頂き、ジャンベ、バラフォンのエネルギー溢る演奏と共に音の感性の鋭さとパフォーマーをご披露頂き、拍手喝采を存分に浴びて頂いたところでもあります。折角の機会でしたので、前日には町内の女性や子供達に、そして当日の空き時間には隣町の障害福祉施設「向陽園」まで足を延ばして頂き、入居者と共に「音の解放広場」を堪能したひとときであり、入所者に別れを惜しまれながらも式典会場へお戻り頂きました。

もう一つの記念事業と致しまして、様似町交通安全運動推進協議会に対し、交通安全啓発看板1基、加えて「子供の貧困問題」がクローズアップされている昨今から、教育振興の一環として、皆が願う小中学校完全学校給食の実現にむけて、と保健福祉事業に活用頂くべく、様似町へ寄付目録の贈呈をいたしました。

最後になりましたが、式典の中で「POLIO END NOW」として、私たちは、ポリオ撲滅の歴史的瞬間に立ち会うために参会の皆様にご協力を頂き、沢山の真心をお預かりしましたので、後日届けさせていただきます事をお約束いたします。

さまざまなプログラムにご協力を頂き予定の時間を超過し、最後に皆様とともにロータリーソング「手に手つないで」を合唱し、お隣の友の手のぬくもりを感じながら式典の全てを無事終了する事が出来ました。細川パストガバナー、第8グループの皆様ありがとうございました。そして、国立金助ガバナーのお体を案じつつ、一日も早いご回復を願っております。



国際ロータリー第 2510 地区第8グループ

IM インターシティミーティング

ガバナー補佐 小林 栄一

(様似RC)

2018年2月4日(日)、様似町アポイ山荘に於いて、様似RCをホストクラブとして、第8グループのIMと様似ロータリークラブの創立50周年記念式典が開催されました。

第8グループ5クラブ(静内、三石、浦河、えりも、様似)約80名の会員と、来賓として、細川パストガバナー、玉井清治地区職業奉仕・基本理念委員長(講師)、坂下様似町長、東(あずま)様似町交通安全推進協議会事務局長をお迎えし、盛会裡に終了致しました。出席会員の皆様、並びに、御来賓の皆様は厚く御礼申し上げます。

今回の第8グループのIMのテーマである「取り戻そうロータリーの心～その根幹を学ぼう」は、国立ガバナーの今年度の地区推進目標の一つであり、国立ガバナーは「ロータリーの心」は友情・親睦を基本にした「奉仕の心」であり、「奉仕の心」は「人を思いやる心・人の役に立とうとする心」だと述べておられます。玉井さんの講演は、正にそ

の根幹は何なのかを解明するものであり、「Service above Self.」「He profits most who serves best.」の基本理念のもと、「職業奉仕」の実践が「奉仕の理想」の根幹であり、「職業奉仕」が全ての基本だと言っても過言ではない、と結論付けられました。私たちロータリアンにとって、真の「職業奉仕」とは何なのかを深く考えさせられた一日でした。

講演終了後、細川パストガバナーより、心のもった総評をいただいた後、次期開催クラブと次期ガバナー補佐の紹介とご挨拶をいただき、引き続きの様似RC創立50周年記念式典・懇親会に入り、各クラブ会員の情報交換、親睦を深める事ができました。

最後は、全員で、ロータリーソング「手に手つないで」を合唱し、深い絆を確認し、無事終了する事ができました。紙面をお借りし、関係各位の皆様は、再度、心より御礼申し上げます。





国際ロータリー第2510地区第9グループ

第46回都市連合会(IM)報告



ガバナー補佐幹事 中 田 敏 行
(室蘭RC)

2月3日(土)に第9グループの第46回IMを室蘭プリンスホテルで開催しました(132名登録、ホストクラブ：室蘭ロータリークラブ)。

今回は、人口減少や地域経済の衰退の中、会員減に伴う財政や人材的な問題の発生、さらに将来的には、今までの活動の継続が難しくなる予想もされる状況において、クラブ間の連携は元より、団体を超えて連携することで、地域に対して、より効果的な貢献が出来るのではと考え、「地域社会への奉仕活動の連携を模索して」をテーマとしました。このため、初めての試みとして、他団体の室蘭ライオンズクラブ、伊達ライオンズクラブ、国際ソロプチミスト室蘭をお招きしました。

国立ガバナーは、急な検査入院のためご欠席となりましたが、ガバナーから、「各クラブが他の奉仕団体と連携して活動する事により、さらに地域に根ざした素晴らしい活動が出来る事を期待します」とのメッセージを頂きました。

お互いの理解のため、各団体の概要紹介と地域への奉仕活動を紹介した後、奉仕活動の連携の可能性に関するディスカッションを行いました。各

団体の地域への奉仕活動は、似たような内容が多く、会員増強が共通した重要課題でした。「地域社会への奉仕活動の連携・交流」に対しては、積極的に連携したいと云う意見と、これまでの経緯を踏まえる必要もあるとの意見が出ました。各団体の今後の地域社会に果たす役割では、国際ソロプチミスト室蘭から「子供食堂」など人道的支援の必要性の発言があり、先進国の中で日本の貧困率が問題になっている中、一つの重要な方向性を示すものと感じました。

遠藤パストガバナーから、「今回のIMにより、お互いが何を目標しているのか分かった事は非常に意義があったと思います。各自の立場でやることはやる。その上で、協力すべきところは協力してやっていけるのではないかと。そのために事前の計画と先を見据えて、意見を出し合う事が必要になるだろう」という主旨の講評がありました。懇親会で参加者の親睦を深め、今回のIMが地域社会への奉仕活動のあり方を考える契機になれば幸いという思いでIMを終えました。



国際ロータリー第2510地区2017-2018年度 新会員合宿セミナー報告

国際ロータリー第2510地区
地区代表幹事 森川 順治

1月27日、28日の2日間の日程で、登別グランドホテルを会場として、入会3年未満の新会員を対象とした新会員合宿セミナーが行われました。参加者には他クラブとの交流を目的とした古参?会員も加わり、地区内30クラブ59名、地区支援委員会渡邊委員長と委員の皆さん、丸山PG、羽部PG、嵯峨PG、ガバナー補佐、地区幹事等総勢90名を超える出席をいただきました。

国立ガバナーが呼びかけております「あなたの力を少しお貸してください、夢を語り合い楽しい一年に」、また地区推進目標として掲げた「地区委員会とクラブの活性化」を今回合宿する新会員の率直な意見や発想を地区全体で共有し、スキルアップすることを目的とし実施されました。

このセミナーは嵯峨ガバナー年度に於いて地区として初めて開催され、国立ガバナーが地区目標の推進の為、再度開催することを決定した次第です。合宿セミナー運営にあたっては、岩見沢RCの全面的なバックアップをいただいたことに感謝申し上げます。



各自チェックインと登録の後、午後2時より合宿セミナーが開始され、基調講演講師の舟本秀男(株)財界さっぽろ取締役社長が、「先覚者から学ぶ北海道の夢」と題し、1869年松浦武四郎が未踏の開拓地名称を選定する「道名の儀につき意見書」提出し、6案の中から北加伊道に決まり、その後、現在の地名北海道となった経緯や松前藩の圧政に苦しみながら自然と共生していたアイヌ民族に寄り添った姿勢、北海道開拓に幾多の困難を乗り越えた先人の知恵、江戸時代本田利明が唱えた「四大急務」経世秘策を北海道が今後発展していくための指針としようとして訴えかけ、講演を拝聴している我々ロータリアンのクラブ活性化の道標とすべき「四大急務」を考察する視点を与えて下さいました話に引き込まれました。





続いて、丸山パストガバナーの、「理想のロータリアンとは？」と題する講話では、体調が思わしくない中、いつもの軽妙洒落な丸山節で聴衆の笑いを誘い参加者を和ませてくれました。

講演終了後、「あなたが会長になったら？」をテーマとして8グループに分かれてブレインストーミングによるワークショップを開始、懇親会終了後は各部屋に戻って、熱い討論を繰り広げ、日付が変わる夜半まで、

または街へ繰り出し、討論と親睦を深めていたようです。



2日目は各グループより成果の発表がありました。グループ発表では、ロータリーの友誌をクラブ全体で読み込む時間を作る、地元市民との交流によるロータリークラブ理解の推進、クラブ間交流では地区内全クラブをメーキャップしてバナー交換する、クラブ合同で奉仕活動する、新入会員オリエンテーションの標準化で定着率を上げるなど様々な提言があり、今後のクラブ運営などに参考となる発表がありました。またグループラインで交流し、今回のセミナーをきっかけとして定期的に会合を持つなど親睦の高まりを感じました。その後、ガバナー補佐による採点で順位を決め、優勝チームの発表が行われました。

閉会に先立ち国立ガバナーより講評があり、参加された皆さんが真剣に討論されとても充実した有意義な2日間が終了しました。



最後の海外研修を終えて

赤平ローターアクトクラブ 塩地 恵 実

2018年1月19日(金)～22日(月)まで3泊4日の海外研修に参加させていただきました。

私は今年度卒業のため今回が最後の海外研修でした。台湾は、初めて海外研修へ参加した2012年と2016年に訪れ、今回で3回目の馴染みのある行き先。これまで、日本語を例会の公用語としている「台北東海ローターアクトクラブ」とメインに交流会を行っていましたが、今回は、その交流をきっかけに北海道訪問を受け入れたり、札幌で合同例会を行うなど、独自に親交を深めてきた「新竹北区ローターアクトクラブ」への訪問です。

また、前回交流した台北の他のクラブの方も駆けつけてくれて、これまでの集大成の旅といった感慨深さがありました。

20日(土)、地下鉄と電車を乗り継ぎ、2時間程で初めての新竹へ。待ち合わせの小さな駅「新竹香山駅」は日本統治時代の日本式の建築で、現存する最古の駅舎だそうです。駅には新竹北区ローターアクトクラブの皆が大勢集合してくれていて、再会を喜び合いました。ここからは新竹北区のメンバーが運転してくれる車に乗り合って移動し、まずは個人的に楽しみにしていたガラス工場の見学と吹きガラスの制作体験。ロータリアンの方が経営するコーヒESHOPで新竹名物のピーフンの昼食を頂いた後、交流会で両代表の挨拶やお互いのお土産の交換を行いました。

新竹は、ガラス・ピーフン・エンジニアの3つが有名だそうです。iPhoneの半導体も製造している世界的な大企業があり、立派なオフィスビル群に驚かされました。新竹ローターアクトクラブのメンバーにもエンジニアだという方が何人もいて、優秀な台湾のアクターの凄さを目の当たりにしました。車内では台湾の若者の生活事情を教えもらったり、流行の曲を聞かせてもらったりと、異文化を知ることができました。

台湾に住む民族の一つである「客家」の古都「北埔老街」を訪れ、伝統的なお茶「客家擂茶」作りを体験しました。お茶葉と胡麻とピーナッツをす

り潰し、烏龍茶で割って飲むもので、粒が無くなるまですり潰すのは大変でしたが、皆で力を合わせての共同作業は楽しく、さらに親睦を深めることができたと思います。

21日(日)は台北観光。新竹北区のメンバーの他に、前回の海外研修の際に交流した他の台北のクラブの方も来てくれて、お互い卒業の年に最後に再会することができ、嬉しかったです。

台湾で話題のアートスポットは、レンガ造りの倉庫跡を利用した雰囲気ある場所で、本格的に写真撮影している人達の姿が多く見られました。開催されていた展示会は、新海誠監督やカナヘイさん、蜷川実花さんの写真展など、日本のコンテンツが台湾でも人気ということもわかりました。

私が最も楽しみにしていたタピオカミルクやカキ氷など台湾名物の美味しいスイーツも堪能させていただき、最後は台北101へ。皆で小籠包の夕食をいただき、2日間の交流を締め括りました。

短い時間でしたが、台湾の歴史的な側面から、日本との友好な関係性、最先端技術で世界に進出している今の台湾まで、幅広く触れ学ぶことができたと思います。個人的には、過去の反省を踏まえて勉強してきた英語力も少しは向上し、これまで一番台湾の皆と楽しくコミュニケーションを取れたことも嬉しい成果でした。改めてローターアクトは世界規模で、国境を越えて仲間がいるということを実感しました。このような貴重な経験をさせていただき、多くを学び成長することができ、これまでアクト活動をしてきて本当に良かったと感じています。そして、アクト卒業後も、これらの素晴らしい経験や絆を大切に、今後に活かしていきたいと思います。

最後に、今回ご同行くださった地区ローターアクト副委員長の川本様、地区ローターアクト委員の堀様、ご支援いただいたロータリアンの皆様、準備や調整に尽力してくれた地区役員の皆さん、台湾出身OGのワンさん、そして2日間、多大な歓迎をしてくださった台湾の皆様、本当にありがとうございました。



新会員のご紹介

(敬称略)



新札幌RC
大石 真貴
1月10日入会
— 飲食業 —



滝川RC
工藤 信和
1月11日入会
— 臨床検査 —



滝川RC
丹 芳男
1月11日入会
— 病院管理 —



羽幌RC
山田 秀則
1月11日入会
— 団体役員 —



千歳セントラルRC
南雲 勇次
2月6日入会
— 一般建築工事業 —



千歳セントラルRC
伏木 千幸
2月6日入会
— その他のサービス業 —



米山記念奨学会へのご協力に感謝申し上げます

米山功労者

札幌北RC 出村知佳子会員 (1回) 1月17日

ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

赤平RC 宮川 徹会員 (5回) 1月30日
江別西RC 雉子谷 明会員 (1回) 1月24日
札幌東RC 滝川 武彦会員 (3回) 1月4日
森 RC 堀尾 功 会員 (1回) 1月30日

ポール・ハリス・フェロー

札幌北RC 中村 越子会員 1月19日
札幌大通公園RC 佐藤 文彦会員 1月26日
室蘭北RC 齊藤 俊一会員 1月30日
森 RC 島野 祐司会員 1月30日

米山奨学生の紹介



那音太(モンゴル)

北海道酪農園大学・江別西RC

私は2017-2018年の奨学金の受賞者ナインテです。

私は中国内モンゴル草原の遊牧民の子供で、今、酪農学園大学環境研究室博士3年生として勉強しています。

留学前、自分は、内モンゴルの財經大学の教師を勤めておりました。仕事をやめて、日本に留学したいと決意するまで多くの悩みもありましたが、その気持ちは強く、つらいことでしたが、妻と子供を故郷に残して日本にきました。

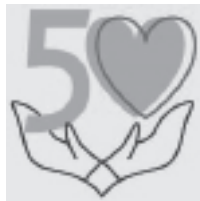
博士3年に入る前、幸いにもロータリー米山奨学生に選ばれました。奨学生になっ

た事は、自分だけでなく家族にとっても最も嬉しい事でした。奨学金をもらい、私のアルバイトの時間を減らして勉強に集中できて助かっています。

勉強に集中し、一心不乱に研究して、より早く博士課程を卒業して、帰国後、故郷に貢献したいと思っています。

2月には、妻と子供(4歳)と一緒に日本に来る予定で、楽しみにしています。家族と一緒に暮らすのは幸せなことでしょう。

故郷の草原の保護と世界の環境保護をするために努力します。



公益財団法人ロータリー米山記念奨学会マンスリーニュース

2018.2.14

ハイライトよねやま

Vol. 215

50周年を祝ってー海外学友会からの贈り物ー

財団設立50周年記念式典を目前に控えた2月2日、ネパール米山学友会(会長:ビジャヤ・パントさん)からお祝いの品が届きました。ネパール伝統の見事な木彫り細工の施された壁飾りで、日本語で「50周年おめでとうございます」とメッセージプレートが付いています。

また、式典当日には、モンゴル米山学友会(会長:シルネン・ブヤンジャルガルさん)から、50周年記念の米山シンボルマークをあし

らった手作りのウェルカムボードが届けられ、受付に飾られました。台湾米山学友会(理事長:呉憲璋さん)からは、台湾の刑務所で矯正教育の一環として作られた芸術的なボールペンが60本寄贈されました。このボールペンは、同学友会の意向により、来賓に贈られたほか、当日、ニコニコボックスに3千円以上寄付してくださった方に、御礼としてプレゼントされました。

寄付金速報ー下期も順調なスタートー

1月までの寄付金は前年同期と比べて4.9%増(普通寄付金:0.7%増、特別寄付金:7.3%増)、約5千万円の増加となりました。1月のみの寄付額は例年並みでしたが、寄付累計額は約10億7千万円で、直近10年間のうちでも3番目に多い寄付額となり、下期も順調に良いスタートを切ることができました。

1月は普通寄付金(クラブで決定した金額×会員数分でお送りいただく定期寄付)下期分が主となりますが、今年度は1月末までに全クラブの75%、1,696クラブからご納入いただきました。

今後ともご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

記事の続き、および、その他の記事はぜひPDF版をご覧ください。

<http://www.rotary-yoneyama.or.jp/content/uploads/summary/highlight215.pdf>


Rotary
Zones 1 & 2 & 3



コーディネーター
NEWS

2018年3月号

発行：Zones 1 & 2 & 3
ロータリーコーディネーター
ロータリー公共イメージコーディネーター
第2ゾーン担当

■国際協議会(1月14日～20日)が終了しました。”BE THE INSPIRATION/インスピレーションになろう”という次年度会長テーマが発表されました。

“ロータリアンたる者は行動して周りの人と伴に世の中に好ましい変化をもたらしてゆこうよ。そして何よりも自分も変わろうよ”と訴えられました。ロータリーの世界は次年度へ向かって準備を始めましたが、現在私たちは当該年度の仕上げの期間を迎えましたが、成果はいかがでしょうか？5日間の理事会が開かれました。特記すべきことは、会員増強プログラムのフリーターキングでしょうか？皆様にお見せしたくなるほどの熱のこもったものでした。会員の 카테고리、資格案件、ゾーン地域別組織などが語られ、各理事がこの会員増強に必死な努力をされていることが伝わってきました。あの柔軟性あるクラブ運営を応用した新たなクラブの創立の評価はまだ途上です。むしろローターアクターをロータリーに迎える工夫を強化するようです。また、クラブに二つの数字(プロジェクトに費やしたお金とボランティア期間)を明示するよう求められています。奉仕活動(お金×期間)で可視化しようとする試みは少なくとも日本ではロータリー運動のマイナス要因となると考えます。これも国によって温度差がありますので一筋縄ではいかないでしょう。

国際ロータリー 理事 斎藤 直美

■「ロータリー・ボイス」ということ

近年、RIは「ロータリー・ボイス」ということを言っている。しかし、いまだロータリアンに浸透しているとは言いがたい。このボイスにはエッセンス・ステイメントという注釈がうたれている。ロータリーの魅力をこのボイスを使って分かりやすくストーリーで語ろう、というものである。このボイスは「賢明さ」・「思いやり」・「粘り強さ」・「行動を促す力」の4つである。ロータリーの広報・公共イメージアップを図るとき、このボイスの活用は有効である。「賢明さ」は、博識・洞察力・自信を想起させる。世界122万人からなる経営者・専門職のネットワークは多面的なものを見方かつ問題解決を可能にする。また100年を超える歴史と伝統は組織としての知恵をもっている。「思いやり」は「超私の奉仕」に象徴されるロータリーの社会奉仕・国際奉仕(6つの重点分野)などの「他人を思いやり、他人のために尽くす」活動がある。このボイスは相手に誠実さ、親身といったことを印象づける。「粘り強さ」は、ときに諦観的な見方がされるポリオの撲滅に1985年以来30年を超えて取り組んでいる。またインターアクト・ローターアクト・青少年交換など、青少年の育成を半世紀に渡り粘り強く推進していることも特筆される。ポリオの現在の常在国はアフガニスタンとパキスタンの3国のみであり発症数も激減し、もう少しのところまできている。長年にわたるロータリーの貢献は大きく、ロータリーを語る時相手に明確な目標意識や勇気をイメージさせる。「行動を促す力」は、ロータリーの理念を表す「2つの標語」、「ロータリーの目的」、「4つのテスト」など、私たちが奉仕活動へと鼓舞する理念・哲学がある。現在、「マイ・ロータリー」には情報資源が満載されている。この活用こそクラブの活性化、ロータリーの「公共イメージと認知度の向上」に求められているものである。クラブのボイス、自らの職業上のボイスを創ることも良いのではなからうか。

第2ゾーン ロータリー公共イメージコーディネーター 柳生 好春

新ゾーン編成

ZONE 1: Section A: Japan (northern): 2500, 2510, 2520, 2530, 2540, 2550, 2560, 2800, 2830
Section B: Bangladesh, Indonesia, Pakistan: 3271, 3272, 3281, 3282, 3410, 3420

ZONE 2: Guam, Japan (central), Micronesia, Northern Marianas, Palau: 2570, 2580, 2590, 2600, 2610, 2620, 2750, 2760, 2770, 2780, 2790, 2820, 2840

ZONE 3: Japan (southern): 2630, 2640, 2650, 2660, 2670, 2680, 2690, 2700, 2710, 2720, 2730, 2740

■ お知らせ

この度、ロータリーコーディネーター補佐であった柳生好春バスタガバナー(D2610野々市)が、イアン・ライズリー会長の任命によるロータリー公共イメージコーディネーターに就任いたしました。RPICとしての役割は即時開始となります。

前RPICの故・渡辺治夫様は公共イメージの取り組みを通じて会員増強にも貢献され、RPICの模範となる多大な貢献をされました。

■ ゾーン再編と増強目標

8年に一度のゾーンの再編が発表され1年がたちました。日本は3ゾーンから2.5ゾーンになります(2019年中に移行予定)。簡単に言うと1ゾーンを35,000人にする再編です。第1ゾーンにセクションAとBが新設され、Aには分割された旧第1ゾーンの地区、Bはバン格拉デシュ・インドネシア・パキスタンで構成されます。第2ゾーンに旧第1ゾーンの関東圏のほとんどの地区が入り、第3ゾーンに2630地区が加わるようになります。

1月31日現在、第1ゾーン28,731人、第2ゾーン28,157人、第3ゾーン32,976人で、合計89,864人です。次回のゾーン見直しは2024年の予定ですが、その2年前の2022年までに3ゾーン奪還の目安となる105,000人を再び突破させようとの目標を定めています。

単純に計算すると、これから毎年3.5%ずつ増強できれば、5年で106,730人になります。この間クラブ数の増減などさまざまな事象が起こると予想されますが、クラブも地区もゾーンもこの「年間3.5%増強」を目標に掲げ、次回ゾーンの再編の際には3ゾーンの奪還を果たしましょう。例えば、現在40人のクラブは2022年には48人にするということになります。とてつもなく難しいことではありませんね。問題は5年間、クラブや地区が増強のモチベーションを維持することができるのかにかかっています。つまりガバナー、GE、GN、GNDがしっかり引き継いで強靱なリーダーシップで進めていかなければなりません。

更に付け加えると、特に大都市圏ほどロータリアン比率が低いというのが現実です。人口1万人当たりのロータリアン数7.03人(国内平均値)を下回っている県・地区におかれましては、合わせて特段の増強の推進をお願い致します。

第2ゾーン ロータリーコーディネーター補佐 野口 英一

地区カレンダー (3月・4月)

3月 水と衛生月間	
1 (木)	日台ロータリー親善会議
2 (金)	
3 (土)	2018年3月終了米山奨学生送別会
4 (日)	
5 (月)	
6 (火)	
7 (水)	
8 (木)	
9 (金)	
10 (土)	2017-18年度会長エレクト研修セミナー (札幌)
11 (日)	地区財団セミナー・米山セミナー (札幌)
12 (月)	
13 (火)	
14 (水)	
15 (木)	
16 (金)	
17 (土)	第4・5グループIM (札幌)
18 (日)	
19 (月)	
20 (火)	
21 (水)	春分の日
22 (木)	
23 (金)	
24 (土)	第10・11グループIM (函館)
25 (日)	
26 (月)	
27 (火)	
28 (水)	
29 (木)	
30 (金)	
31 (土)	第3グループIM (岩見沢)

4月 母子の健康月間	
1 (日)	
2 (月)	
3 (火)	
4 (水)	
5 (木)	
6 (金)	
7 (土)	米山記念奨学生歓迎会 第2グループIM (砂川)
8 (日)	
9 (月)	
10 (火)	
11 (水)	
12 (木)	
13 (金)	
14 (土)	
15 (日)	2018-19年度地区研修・協議会 (札幌)
16 (月)	
17 (火)	
18 (水)	
19 (木)	
20 (金)	
21 (土)	千歳RC創立50周年記念式典予定
22 (日)	第6グループIM予定 (小樽)
23 (月)	
24 (火)	
25 (水)	
26 (木)	
27 (金)	
28 (土)	
29 (日)	昭和の日
30 (月)	

出席率・会員数

グループ	クラブ名	例会数	会員数				出席率
			2017.7.1	2018.1.31	増	減	
1	深川	3	30	33	3	2	85.45
	羽幌	3	45	44	-1	2	77.77
	妹背牛	3	7	7	0	0	80.95
	留萌	3	34	36	2	3	83.27
	小計		116	120	4	7	81.86
2	赤平	4	29	29	0	2	72.27
	芦別	3	32	32	0	2	72.41
	砂川	4	41	42	1	1	95.62
	滝川	3	87	93	6	4	76.00
	小計		189	196	7	9	79.08
3	美唄	3	29	25	-4	0	83.34
	江別	3	32	32	0	1	81.25
	江別西	3	29	30	1	4	91.10
	岩見沢	3	75	76	1	0	94.21
	岩見沢東	4	19	19	0	2	78.27
	栗沢	3	19	19	0	1	96.20
	栗山	3	26	26	0	4	88.00
	当別	4	27	27	0	0	90.49
小計		256	254	-2	12	87.86	
4	札幌	4	117	130	13	2	96.94
	札幌はまなす	3	21	20	-1	3	78.33
	札幌北	3	42	41	-1	4	88.03
	札幌モーニング	3	34	34	0	0	76.33
	札幌西	4	48	49	1	9	76.31
	札幌西北	3	34	34	0	3	83.80
	札幌手稲	4	39	40	1	4	88.53
	小計		335	348	13	25	84.04
5	札幌東	3	132	127	-5	0	97.40
	札幌清田	3	13	12	-1	4	100.00
	札幌幌南	3	66	65	-1	10	98.29
	札幌真駒内	3	23	24	1	6	100.00
	札幌南	3	85	88	3	1	95.88
	札幌大通公園	2	13	14	1	4	57.10
	新札幌	3	24	23	-1	4	86.89
小計		356	353	-3	29	90.79	
6	岩内	2	21	21	0	1	88.09
	倶知安	2	40	40	0	3	70.00
	小樽	3	73	75	2	4	81.00
	小樽南	2	67	65	-2	3	90.98
	小樽銭函	3	19	20	1	1	84.00
	蘭越	3	10	10	0	0	76.70
	余市	4	45	45	0	6	86.66
小計		275	276	1	18	82.49	

※札幌幌南RCには札幌幌南ライラックロータリー衛星クラブの会員数12名(内女性会員6名)を含む

1
月出席率・
会員増減数

クラブ数	69クラブ
期首会員数	2,551人
当月末会員数(女性)	2,606人(160人)
増加会員数	55人
当月平均出席率	81.89%

グループ	クラブ名	例会数	会員数				出席率
			2017.7.1	2018.1.31	増	減	
7	千歳	3	63	70	7	7	80.47
	千歳セントラル	3	43	40	-3	7	66.67
	恵庭	4	48	50	2	3	74.84
	北広島	3	20	19	-1	0	90.63
	長沼	3	17	17	0	3	80.39
	由仁	2	7	7	0	0	64.29
	小計		198	203	5	20	76.22
8	えりも	2	16	17	1	1	100.00
	三石	3	12	13	1	0	73.30
	様似	4	18	18	0	1	81.94
	静内	4	69	69	0	4	86.75
	浦河	3	26	27	1	2	69.14
	小計		141	144	3	8	82.23
9	伊達	3	60	64	4	1	82.32
	室蘭	3	33	34	1	1	82.30
	室蘭東	3	31	37	6	0	75.70
	室蘭北	4	42	46	4	3	65.22
	登別	4	28	26	-2	1	80.77
	洞爺湖	2	10	10	0	0	87.10
小計		204	217	13	6	78.90	
10	函館	3	76	83	7	0	69.92
	函館亀田	3	40	43	3	4	77.78
	森	3	36	37	1	0	75.00
	七飯	3	12	12	0	0	86.10
	長万部	2	8	10	2	0	50.00
	函館セントラル	4	22	22	0	2	84.09
小計		194	207	13	6	73.82	
11	江差	2	11	11	0	1	81.82
	函館五稜郭	3	55	56	1	0	78.57
	函館東	4	45	43	-2	7	72.03
	函館北	4	20	18	-2	0	89.95
	北斗	3	13	12	-1	0	51.40
小計		144	140	-4	8	74.75	
12	白老	3	29	29	0	3	83.40
	苫小牧	3	55	62	7	3	77.42
	苫小牧東	3	29	29	0	5	86.21
	苫小牧北	4	30	28	-2	2	97.12
	小計		143	148	5	13	86.04
合計		2,551	2,606	55	161	81.89	

日本人親善朝食会のご案内

国際ロータリー理事 斎藤 直美
国際ロータリー理事 石黒 慶一

厳寒の候、皆様には益々ご隆昌のこととお慶び申し上げます。
さて、ご周知の通り、国際ロータリー年次大会がカナダ・トロントで開催されます。
つきましては恒例の「日本人親善朝食会」を下記要領にて開催します。
奮ってご参加下さいようお願い申し上げます。

【開催日時】：2018年6月24日(日) 開 場(予定) AM6:30※
朝食会(予定) AM7:00~8:30※
※RI会長の挨拶を予定しております。

※変更が生じる可能性があります。最終的な時刻は、2018年5月以降に通知する最終案内で確定します。

【場 所】：ハイアット・リージェンシー・トロント 【会 費】：一人 10,000円(着席)
【定 員】：先着500名 【締 切】：2018年3月31日(土)

《お問合せ》詳しくは地区ガバナー事務局へ。



インスピレーション
いたるところに





トロントへようこそ

トロントは、140以上のエリアがあり、訪問者を温かく迎える歴史豊かな街です。きっと、素敵な街並みに魅了されることでしょう。

活気に満ちた街
中心街には有名なアトラクションが数多くあります。そびえ立つCNタワー、ロイヤルオンタリオ博物館、リプリー水族館、ホッケーの殿堂のほか、一流のレストラン、豪華に復元された蒸留所のアートギャラリーなど、エンターテインメント性に優れています。

中心街から抜け出しても、以下のような魅力的なエリアがあります。

- **Casa Loma**
トロントの有名なゴシック様式の城。雄大な庭園と素晴らしい城の館内ツアーに参加しましょう。

- **Kensington Market**
絵になる屋外市場で、掘り出し物を見つけましょう。
- **Distillery District**
トロントで最も古い産業建築が立ち並ぶ蒸留所地区。ユニークなギャラリー、ブティック、カフェなどをお楽しみください。
- **Yonge and Dundas**
エルジン・アンド・ウィンター・ガーデン劇場は、世界最後の二層構造になった複合劇場です。
- **St. Lawrence Market**
活気ある北米有数の生鮮食品市場です。
- **High Park**
美しい公園や池があるトロント最大の緑園で癒されましょう。

ロータリー国際大会
トロント(カナダ、オンタリオ州)
2018年6月23日~27日

Rotary  
riconvention.org/ja JA











文庫通信

(365号)

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。
ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、約2万4千点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は
勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。
また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。
クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。
以下資料のご紹介を致します。

新着の文献から

◎「純粹親睦」 (回首原点-ロータリーの心を尋ねて(その7))	佐古 亮尊 大村北 R.C. 2011 2p
◎「ロータリーは思想である」 (回首原点-ロータリーの心を尋ねて(その8))	佐古 亮尊 大村北 R.C. 2016 6p
◎「なぜ私たちは他人に親切にするのであろうか」 (ロータリーの心をたずねて)	富田 英壽 2017 2p
◎「基本に戻って、魅力あるロータリーに」 (ロータリーの心をたずねて)	富田 英壽 2017 5p
◎「ロータリーはどこへ?-ロータリーの目的と自分の人生の目的のベクトルを合わせる生き方」 (夢を語り、現在(いま)を刷新)	刀根荘兵衛 2017 3p
◎「ロータリーとは?」	鈴木 一作 2018 4p (D.2800月信)
◎「ロータリーと持続可能性」	吉田 雅俊 2017 1p (D.2580月信)
◎「柔軟性導入は会員増のソリューションなのか?」	小船井修一 2018 9p (D.2840月信)
◎「五つのテスト?」	玉井 清治 2017 1p (D.2510月信)

(上記申込先: ロータリー文庫)

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3階
TEL(03)3433-6456 FAX(03)3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>
開館/午前10時~午後5時 休館/土・日・祝祭日

表紙の解説

函館は、1854年(安政元年)に締結した日米和親条約により、日本初の国際開港地となった歴史都市です。

そうした経緯もあって、函館市内には「日本で最初」、「北海道で最初」といわれる数多くの建造物や足跡などが現存しています。

月信では、そうした「最初」の数々の中から、13点を選出し、各月の表紙で紹介しています。

表紙写真提供/函館中央図書館蔵

Rotary
District 2510

